

深沢 亮子(ピアノ) FUKASAWA Ryoko



12歳で全日本学生音楽コンクール第一位、文部大臣賞受賞。15歳で第22回日本音楽コンクール首位受賞。17歳でウィーン国立音楽大学に留学、1959年同校を首席で卒業。翌年、楽友協会ブラームス・ザールにてデビューリサイタルを開催し絶賛される。1961年ジュネーブ国際音楽コンクール最高位入賞(1位なしの2位)。以来ヨーロッパや南米、アジアの主要都市でリサイタルや室内楽、オーケストラの共演等国際的な舞台上で活躍。共演した指揮者はL.v.マタチッチ、G.ヴァント、H.ヴァールベルク、小沢征爾ほか。オーケストラはN響、東響、N.Ö.トーンキュンストラ管弦楽団、ウィーン室内管弦楽団他。室内楽では新旧ウィーン八重奏団、ブリュッセル弦楽四重奏団、シュトイデ弦楽四重奏団他。1992年国際交流基金により音楽文化使節として天満敦子女史(Vn)とルーマニア、チェコ、スロヴァキア、ブルガリアへ派遣される。日本の作品も内外に数多く紹介。また度々ウィーンのベートーヴェン国際ピアノ・コンクール、日本音楽コンクール他の審査員を務める。

毎年リサイタルを開催しているが、特に2003年、2004年デビュー50周年記念、2009年デビュー55周年記念、2013年デビュー60周年記念演奏会を開催。著書、CD、楽譜の出版等多数。2005年、デビュー50周年記念CD(ナミ・レコード)、2007年と2009年に恵藤久美子、安田謙一郎両氏と「深沢亮子と室内楽の仲間たち」I・II(同)、2011年に藤井洋子(クラリネット)、生沼晴嗣(ヴィオラ)、アダルベルト・スコッチ(チェロ)諸氏と「楽に寄す〜街の歌〜」(同)、中村静香氏と「シューベルトティアレードふたたび」(同)をリリース。2015年には、ハイドンとシューベルトによる「Fantasie 幻想」が「レコード芸術」誌において特選盤となる。英国ケンブリッジ国際伝記センター(IBC)により「最も優秀な100人の音楽家」に選ばれる。日本音楽舞踊会議代表理事。(公財)国際開発救援財団理事。1963年大阪府民劇場奨励賞、1995年千葉県文化功労賞。永井進、G.ヒンターホーファー両教授に師事。

恵藤 久美子(ヴァイオリン) ETOH Kumiko



ヴァイオリンを鷺見三郎、海野義雄氏等の各氏に師事。室内楽を黒沼俊夫、斎藤秀雄氏に師事。第41回日本音楽コンクール2位入賞。1972年、兄、堤剛氏と「二重奏の夕べ」を東京、カナダで開催。1979年のリサイタルでは弘中孝(pf)氏と共演。2002年、深沢亮子氏と「ヴァイオリンとピアノの夕べ」を開催、以後「室内楽の夕べ」として現在まで続く。2017年、中野洋子氏(pf)とジョイントリサイタル。東京フィル、新日本フィルとのメンデルスゾーン協奏曲の演奏や、その他のオーケストラとの共演も多い。1975年より10年にわたり桐五十奏団で活躍。1980年より2年間、山形交響楽団コンサートミストレス。1991年より2002年まで海野義雄を中心とした東京ヴィルトゥオーゾでコンサートミストレスとして活躍。現在、桐朋学園大学特任教授。日本音楽舞踊会議会員。

2017年、中野洋子氏(pf)とジョイントリサイタル。東京フィル、新日本フィルとのメンデルスゾーン協奏曲の演奏や、その他のオーケストラとの共演も多い。1975年より10年にわたり桐五十奏団で活躍。1980年より2年間、山形交響楽団コンサートミストレス。1991年より2002年まで海野義雄を中心とした東京ヴィルトゥオーゾでコンサートミストレスとして活躍。現在、桐朋学園大学特任教授。日本音楽舞踊会議会員。

北川 靖子(ヴァイオリン) KITAGAWA Kiyoko



東京芸術大学卒業。ウィーン国立音楽大学を全教授一致の最優秀にて卒業。ヴァイオリンをW.シュタフォンハーゲン教授、F.サモヒール教授に、室内楽をF.ホレチェック教授に師事。1975年ザルツブルク・ミラベル宮殿、東京でリサイタル。1976年から1984年、ハンブルク交響楽団コンサートミストレス。1981年ハンブルク市文化局主催コンサートでリサイタル。1985年12月~1991年12月北川暁子と、25回の「ドゥオの夕べ」を開催。1987年東京にてリサイタル。1989年北川暁子、千本博愛と「セルヴェトリオ」を結成。以後1999年までの演奏会を開催。1992年北川暁子と「ソナタの夕べ」を開催。以後「ソナタの夕べ」他、毎年開催。現在、瀬戸フィルハーモニー交響楽団コンサートミストレス。日本音楽舞踊会議理事。

安田 謙一郎(チェロ) YASUDA Kenichiro



斎藤秀雄、ガスバール・カサド、ピエール・フルニエに師事。1965年第34回日本音楽コンクール第1位を受賞。翌年、ロストロポーヴィッチ、フルニエに勧められ第3回チャイコフスキーコンクールを受け第3位入賞。1969年ルツェルン音楽祭合奏団のソリストとして日本、ヨーロッパ、アメリカ、カナダの演奏会に同行する。1974年香港、サンフランシスコにて小沢征爾と共演。1975年より桐朋学園で後進の指導にあたる。水戸室内管弦楽団のメンバーとして活躍。

1986年に結成した安田弦楽四重奏団、80曲に及ぶハイドンの弦楽四重奏曲全曲演奏、ベートーヴェン年代順室内楽作品の演奏会などのコンサート活動を続け、高い評価を得ている。2015年、J.S.バッハ無伴奏チェロ組曲全曲(マイスターミュージック)等をリリース。日本現代音楽協会、日本音楽舞踊会議、日本・ロシア音楽家協会会員。

中村 静香(ヴィオラ) NAKAMURA Shizuka



桐朋女子高等学校音楽科を経て桐朋学園大学楽学部卒業。全額スカラシップを受け、アスペン音楽祭に参加。文化庁芸術家派遣在外研修員としてジュリアード音楽院に留学。第52回日本音楽コンクール第一位。及び増沢賞、レウカディア賞、黒柳賞受賞。第29回海外派遣コンクール特別表彰。第3回日本国際音楽コンクール入賞。故・鷺見三郎、海野義雄、小林健次、川崎雅夫、故・ドロシ・ディレイの各氏に師事。これまでに、NHK交響楽団等、各オーケストラと共演、各地の音楽祭にも出演。2003年大垣音楽祭でヴィオラのソロ・デビュー、その後はヴァイオリンとヴィオラ双方で活躍の場を広げている。2年に1度開く自主企画のリサイタルでは、ヴァイオリン曲とヴィオラ曲を織り混ぜた意欲的なプログラムを展開。アートユニオンより「シューベルトティアレード」等のCDをリリース。現在、桐五重奏団、水戸室内管弦楽団、サイトウ・キネン・オーケストラのメンバー。東京音楽大学准教授、フェリス学院大学非常勤講師として後進の指導にもあたっている。日本音楽舞踊会議会員。

各氏に師事。これまでに、NHK交響楽団等、各オーケストラと共演、各地の音楽祭にも出演。2003年大垣音楽祭でヴィオラのソロ・デビュー、その後はヴァイオリンとヴィオラ双方で活躍の場を広げている。2年に1度開く自主企画のリサイタルでは、ヴァイオリン曲とヴィオラ曲を織り混ぜた意欲的なプログラムを展開。アートユニオンより「シューベルトティアレード」等のCDをリリース。現在、桐五重奏団、水戸室内管弦楽団、サイトウ・キネン・オーケストラのメンバー。東京音楽大学准教授、フェリス学院大学非常勤講師として後進の指導にもあたっている。日本音楽舞踊会議会員。

ホールアクセス

- 東京メトロ東西線
神楽坂駅1番出口から徒歩約1分
- 都営地下鉄大江戸線
牛込神楽坂駅A3出口から徒歩約7分
- 東京メトロ東西線
飯田橋駅B3出口から徒歩約11分
- JR 飯田橋駅から徒歩約12分

